

千代

○みまかりし従姉何色時雨虹  
木の葉髪払ひ誤作動ATM  
目凝らせば背びれひらひら初氷

農子

いつの間に捨畑覆う大枯野  
カーテンの新しくして年用意  
遠ざかる車の灯り冬銀河

初江

○幼子が遺影に被す冬帽子  
○しぐるるや門扉の堅き友の家  
○落葉掃くひだまり荘の管理人

富江

○年の瀬やサックスホーンに身をまかせ  
夕暮や落葉舞い散る音色にも  
老いて尚この子の願い時雨坂

丞子

不明者の見付かった報さよ小夜時雨  
がさがさと枯葉の恐竜風の子と  
数え日や右往左往とうわの空



志津

○落葉踏むあるじ主なき庭音たてて  
○しぐるるや友は溜息一つ吐く  
穴ひとつふたつと増えて大根畑

富子

時雨に会い自転車急ぐ十一月尽  
掘り返す田の黒土の息吹かな  
染みわたる中本マリの「枯葉」かな



瑞枝

小夜時雨添ひ寝の母の子守歌  
居酒屋の止り木となり夕時雨  
ハスキーな友の歌声枯葉踏む

郁子

○雲間より日矢を放ちて夕時雨  
○昨夜よべの間に野辺は無言の冬の色  
四温晴れ悔くやしがりたる床とこの中

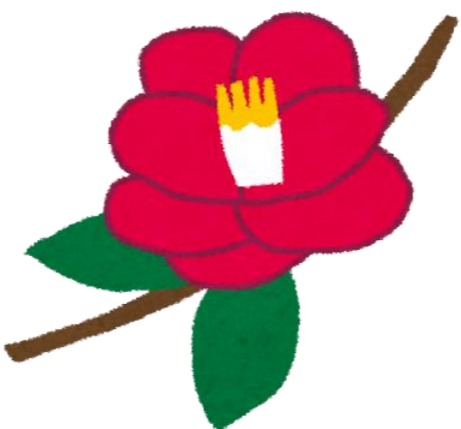
酔花

時雨くるそこそこにして墓掃除  
しぐるるや置き場所変えるシクラメン  
寒椿会う日のための見繕い

えり

○朴落葉馬方の道埋めうずをり  
○芋天いもてんの匂ひさそふや暮の市  
見送りの龍馬空港時雨をり

味元 昭次 作品



落葉道かさりかさりと戦没者  
時雨傘閉ず来し方を閉ずように  
もしかして鬼女かも知れぬ時雨傘

★次回市民句会

【開催日時】

令和六年一月二十四日(水)  
午後一時十五分〜午後四時(予定)

【場所】

オーテピア4階 ホール  
どなたでも自由にご参加いただけます